

## 茨城県図画工作・美術教育研究部研究調査委員会 授業実践研究報告（令和元年8月）

研究テーマ	表現したいことをわかりやすく伝え、心豊かに表現するための工夫 一城里町立常北中学校2年「『私の好きなこと』を切り絵で表現しよう」の実践を通して
-------	--

城里町立常北中学校 教諭

### I 研究テーマについて

中学校学習指導要領 第3章各学年の目標および内容 2 内容 A 表現 (1) ア (ア) では「対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。」を身に付けることができるよう指導するとある。『私の好きなこと』をテーマとすることで夢、想像や感情などの心の世界について自分への考えを深めつつ、対象をしっかりと観察し特徴を捉えさせることができる。また、切り絵という制限のある材料を使うことによって、図案の強調や省略から情景や気持ちが象徴化され、生徒がより自分自身の思いをわかりやすく表現することができると考え研究テーマとした。

### II 研究の実際

#### 1 題材名 『私の好きなこと』を切り絵で表現しよう

#### 2 題材の目標

- 自分の表現したいことについて考えたり、他者との対話の中から感じたりしたことをもとに、主体的に表現につなげようとする。 (関心・意欲・態度)
- 材料や用具の特性から、制作の順序などを総合的に考え、見通しをもって制作することができる。 (発想・構想する力)
- 材料や用具の特性を生かして制作することができる。 (創造的な技能)
- 自分の作品や友達の作品から作品への思い、それぞれのよさや美しさ、工夫を感じ取ることができる。 (鑑賞)

#### 3 題材について

##### (1) 生徒の実態

本校の第2学年は、第1学年時の美術科の授業において、絵の具を使った絵画やデザインの作品制作や、樹脂粘土を使った造形作品の経験はあるが、カッターなどの刃物を使った制作を行った経験はない。授業に対して積極的に取り組む生徒が多く、明るい雰囲気である。「私の好きなこと」という主題については、自由に思いついて制作できる生徒と、思いついて決定するまで時間のかかる生徒がでてくることが予想されるが、自己についてしっかりと考え方させたい。今後、第3学年の授業で彫刻刀を使っての制作を行う予定なので、生活する上で身近な道具であるカッターを使って制作することに慣れさせたい。

##### (2) 題材観

昨年度に制作した「絵文字のデザイン」や遠近法を使った絵画などから、省略や単純化、特徴を強調して表現することや、イメージを形にしていくことを既習している。近年日常生活の中で刃物を使うことが少なくなっているので、カッターの使い方や、紙の特性などの学習から、身近な材料や用具の特性を知り、物の見方を広げさせることができる。

### (3) 指導観

計画的に進めさせたいので、図案から、線の強弱（太い細い）や線のつながり、切り取った部分の色彩計画など、こまめに相談して確認していきたい。切り絵は紙を切って表現するため、しっかり手順を確認しながら制作させたい。刃物については使い方をきちんと説明して安全面に配慮したい。

### 4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自己を見つめ、主題にあった図案を生み出そうとしている。	材料の特性や制作時間を見て表現を創意工夫することができる。	材料や用具の特性を生かして制作することができます。	自己や他者の作品のよさや美しさを感じとることができる。

### 5 指導と評価の計画（9時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 3時間	・切り絵の制作手順を確認する。 ・アイデアスケッチをする。	・自己を見つめることで、主題にあった図案を生み出そうとしている。 【観察・アイデアスケッチ】
	・アイデアスケッチの構想を基に、構図を見直しながら下描きをする。	・主となる部分は何か考えて構図をとることができる。 【観察・作品】
	・下描きの線を太くしたり、省略したりして整える。 ・切り取った部分の色計画を立てる。	・強調したい部分はどこか考え、表現を工夫することができる。 【観察・作品】
第2次 4時間	・カッターとカッターマットの使い方を確認する。 ・作品となる紙と下描きを重ねて固定し、カッターで切り取っていく。	・安全面に配慮した使い方や準備、片付けをすることができる。 【観察】 ・材料や用具の特性を理解し、切る手順を考えることができる。 【作品】
第3次 1時間	・切り取った部分の色計画を基にして、色をつける。	・表現意図に合わせて背景や部分に色をつけることができる。 【観察・作品】
第4次 1時間	・自分や友達の作品を鑑賞する。	・自己や他者の作品からよさや美しさ、工夫を感じ取ることができます。 【観察・ワークシート】

### 6 指導の実際

#### (1) 切り絵についての理解

切り絵は紙を切って描く絵である。日本の作品だけでなく、レースのような細かい模様

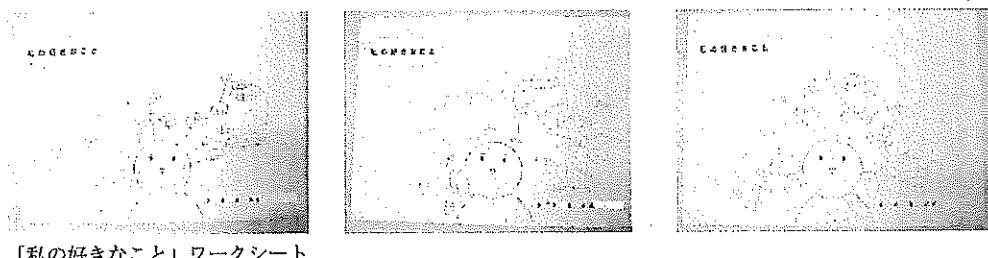
が美しい切り絵や、中国の伝統的な民間芸術である剪紙、メキシコでお祭りやイベントのときの飾りとして使われる切り絵など、海外で作られている切り絵をいくつか紹介し、鑑賞する機会をつくった。デザインそれぞれに繁栄や幸福など吉祥を願う意味が込められていることを感じ取れるようにした。

(2) 強調や省略について

資料集などを見ながら強調や省略の効果について考え、ワークシートにまとめた。

(3) 自分の好きなことを言葉でたくさん書き出す。

アイデアスケッチの前に、「好きなこと」をワークシートにたくさん言葉で書き出し、主題についてイメージをふくらませた。好きなことがすぐ出てこない生徒もいたが、一緒に考えたり、教師や友だちの考えている好きなことを参考で見せたりすると、自分なりの考えを出すことができた。そこで、ワークシート書き出した言葉の中から、絵にしたいことを選んだり、組み合わせたりしてアイデアスケッチにイメージをつなげさせた。



「私の好きなこと」ワークシート

(4) アイデアスケッチを整えて下絵を完成させる。

切り絵とする色画用紙と同じ大きさの用紙に図案を完成させる。線が細いと切る時に途中で切れてしまうことがあるため、下絵は線の太さに注意させた。完成した図案はコピーし、コピーした方を色画用紙と重ねて四隅をホチキスでとめる。色画用紙の色はいくつか用意した中から自分で選ばせた。黒を選ぶ生徒が多かったが、図案にあわせて水色や紺色、白を選ぶ生徒もいた。図案の原本は保管しておく。

(5) 用具の確認と使い方

切る時はカッターとカッターマットを使うので、使い方を確認してから使わせる。カッターに番号をつけ、自分の出席番号と同じ物を使わせた。カッターは使い慣れていないため、中にはどこが刃なのかわからない生徒もいた。全体に向けて持ち方や角度、刃の替え方などカッターとカッターマットの説明を行った。安全面については毎時間確認し、注意を促した。

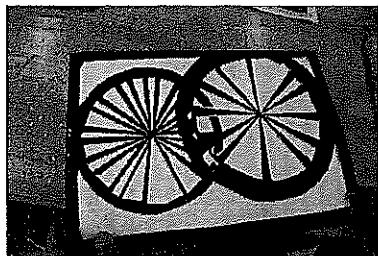
(6) 切る順番について

紙を切り進めるうちに手で押さえるところがなくなってしまうため、図案の中で細かい

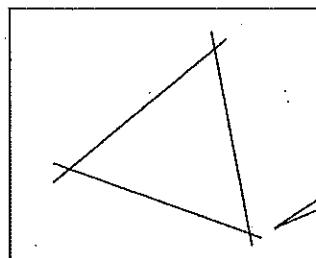
部分や真ん中の部分から切るように説明した。しかし、切りやすそうな大きな部分から切り取ってしまう生徒や、切っているうちにどこを切ったのかわからなくなる生徒などがでてきた。授業中に気をつけて様子を見ながら声をかけ、どうしたら切りやすくなるか考えさせ、アドバイスした。

#### (7) 鋭角な部分の切り方について

ギザギザになっているところなど、いっぺんに切れないとこは角の部分が切れていないことが多く、手でちぎる生徒がでてくるので、切り方を工夫させた。



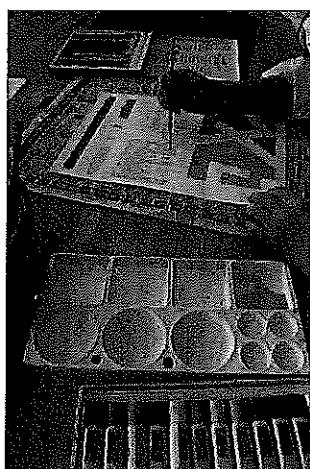
生徒作品(制作途中)



交差するように  
長めに切る

#### (8) 切り抜いた部分の色について

切り終えたら、切り絵の作品の裏に白い画用紙をあて、切り抜いた部分から見える画用紙に色をつける。切り絵と白画用紙はマスキングテープで仮止し、固定させた。ここで、裏からあてる白画用紙を作品にあわせて色画用紙に変更する生徒もいた。また、色をつけるときは、色鉛筆、水彩色鉛筆、コンテ、水彩絵の具、単色折り紙から使いたい材料を選ぶようにさせた。色をつけた画用紙の上に、切り絵を糊で貼り付けて作品を完成させる。色鉛筆やコンテで色をつけた生徒から、「裏からあてる白画用紙に色をつけたら、これだけでとてもきれいにみえるので、上から切り絵を貼るのが惜しくなった」との声があった。ステンシルの作品になっていてきれいにできているので、希望者の作品を写真に撮って残すことにした。また、希望者は数カ所テープで固定することにして、糊で貼らなくてもよいことにした。



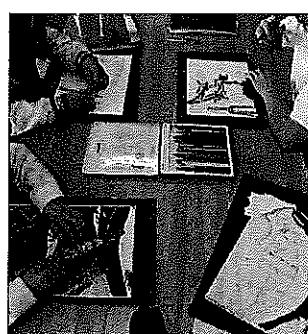
作品をカラフルに見せるため  
切り絵の裏からあてる画用紙  
に絵の具で色を塗っている様子



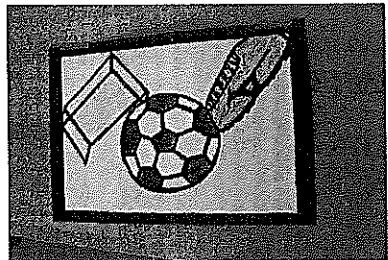
切り絵がステンシルのような  
効果になり、このままの状態が  
気に入った生徒は、色をつけた  
画用紙と切り絵を貼り合わせ  
ず重ねるだけにするか、写真を  
撮るか本人が決める。



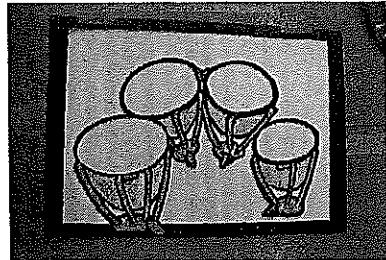
生徒作品(制作途中)



生徒の制作の様子  
生徒により進度は違ってくる



生徒作品(制作途中)

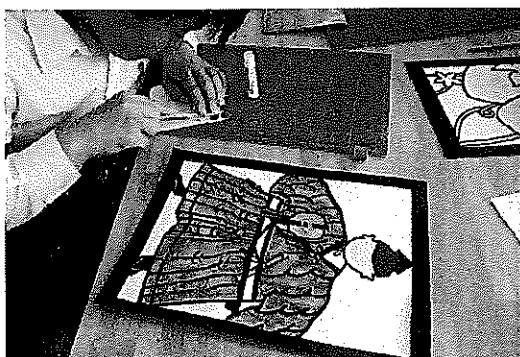


生徒作品(制作途中)

### III 研究の成果と課題

#### 1 成果

文化祭で展示することを目標にして制作を行ったため、目的意識をもって制作する様子が見られた。また、カッターを使うことで安全面に対する注意の説明があったため、始まりでは生徒の取り組み方に緊張感が感じられた。制作が進むにつれ、集中して取り組む生徒が多くなり、制作中はとても静かであった。制作していくうちに、作品をさらによくしたいという思いから、色の違う別の紙を切って上から貼りたいという生徒ができた。主題について、どうしてこの主題を選んだのか、自分の「私の好きなこと」はこういうところが好きなのか、しっかりと考えさせ、制作途中で発想がふくらんだり、作品をもっとよくしたいと思ったりした時に最後の色つけなどで工夫して表現することができた。刃物の取り扱いや準備、片付けについて、安全な使い方を理解し、身に付けることができた。



制作の様子。途中でアイデアがふくらみ、作品をアレンジしているところ。切り絵の上から別の色の切り紙をのせて模様にしている。

#### 2 課題

ワークシートに言葉を書いて、その後アイデアをまとめところで時間がかかり、制作のための時間が短くなってしまう生徒がいた。また、アイデアで時間のかかる生徒は理想が高く、図案が凝りすぎて制作時間が足りなくなるケースもあった。時間が足りない場合は、切り絵だけで表現することにして、背景の色をつけないことも提案し、時間配分を考えさせた。カッターで線に沿って切る練習を行わずに本番に入ったため、思ったように切れないので生徒がおり、新しい紙でやり直しをしたり、計画通りに切り終わらないため途中で図案を変更したりすることもあった。カッターを使い慣れていないことも原因の一つと感じ、事前に使い方や注意点について練習する時間が必要だったと反省した。次にこの題材を行う時は、試し切りの紙も用意して取り組ませていきたい。

